



## 地域に生きる子 [コミュニティ・スクールの報告として]

明世小学校は、コミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）（以下コミスク）です。学校運営協議会では、学校・保護者・地域が「めざす子供像」を共有し、子どもたちの為に行う協働活動について熟議をしています。協働活動として地域の方と行うものは、大きく分けて、次の2つです。

- 学習・地域活動・・・古墳・城址・サイエンスワールド等の文化財や施設見学、方言学習、ホテルや狭間川等の環境学習、読み聞かせ、昔の遊び等
- 安全・環境活動・・・登下校の見守り、交通安全教室、花の苗植え、草刈りボランティア、PTAの資源回収や環境整備や通学路点検等

さて、2月29日には、コミスクとして『感謝の会』を行いました。今年度、子どもたちがお世話になった地域の方々のうち、43名が参加してくださいました。子どもたちは、「こんなにたくさんの人にお世話になっている。地域の人に守られている。」ということを実感することができました。各学年の代表者が、団体の代表者にお礼の手紙を渡しました。



子どもたちの手紙には、次のようなものがあります。

「落ち込んでいた時にあいさつしてくれて、元気が出た。」「ホテルを見て、もっとホテルを大切にしたいと思った。地域の人が大切にしていることが分かったから、夏休みはホテルを大切に強い思いをもってゴミ拾いをした。ホテルは自分たちで育てていると思ったけれど、地域の人のおかげがあったから成長したんだと思った。」

地域の方の思いを知り、自らゴミを拾う。元気な挨拶をもらったから、元気に挨拶する。地域の中で、生きる力を付けていると言えます。感謝の会では、最後に「OMOIYARIの歌」を歌いました。「ひびきあい集会（人権集会）」で歌ったものです。手話もついているので、より感謝の思いが伝わったと思います。

感謝の会の後には、1年生の生活科の学習「昔から伝わる遊びを楽しもう」に参加していただきました。地域の方同士が交流する場、異世代の交流の場にもなって、コミスクが地域の活性化にもつながることを感じました。



前出の手紙の「ホテル」を「子どもたち」に置き換えてみると、『子どもたちは自分たちで育てていると思ったけれど、地域の方のおかげがあったから成長したんだ。』になります。このことを感じられる、『感謝の会』でした。

支えていただいた6年生は、たくましく生きる力を付けて、卒業です。子どもたちも私も、感謝の思いでいっぱいです。